



月潟中学校 学校だより

翔舞

第15号

令和6年3月6日
発行
新潟市立月潟中学校

新潟市南区月潟740

第77回卒業証書授与式

<<WEB版では、アップの顔写真は削除、名前はイニシャルにしてあります>>

3月4日に第77回卒業証書授与式を行いました。たくさんのご来賓の皆様のご臨席を賜り、卒業生は、たくさんの方々から祝福され、母校月潟中学校を巣立っていきました。ご来賓の皆様、保護者の皆様ありがとうございました。

厳粛なムードの中、参会者一同、卒業していく生徒一人一人の確かな成長を感じるとともに、これからの卒業生の躍進を願いました。校長式辞、在校生送辞、卒業生答辞の要約を紹介します。



式辞 「忘れないで夢を こぼさないで涙」 校長 小竹 智



三十六名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

確かな声で返事をし、卒業証書を「ありがとうございました」の言葉を添え、受け取る姿をみて、卒業生一人一人が、心身とも大きく成長し、中学校からの旅立ちに十分な力をつけたことを改めて感じました。そして、別れいく寂しさとともに、卒業生の前途が洋々たるものであるという確信を抱きました。

本日の卒業証書授与式を挙げるにあたり、たくさんのご来賓の皆様のご臨席を賜りました。巣立ちいく卒業生の晴れの門出を、ともにお祝いいただき、感謝いたします。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。立派に成長した我が子の姿に感慨もひとしおのことと思います。お子様が月瀉中学校での三年間で、心身とも、たくましく、そしてのびやかに成長できたことは、ひとえに皆様方の月瀉中学校に対する多大なご理解とご支援のおかげだと思います。お子様が卒業しても、地域の学校として歩み続ける月瀉中学校に、引き続き、御支援を賜りますようお願いいたします。



卒業生が過ごした三年間、学校はコロナウイルスに翻弄されました。特に卒業生が一、二年生だった頃、校内の行事だけでなく、地域の行事や校外での部活動の大会やコンクールも中止されたり、縮小されたりしました。卒業生の皆さんには、つらい思いや残念な思いをたくさんさせました。

今年度、卒業生は、二年間の悔しい思いをバネに、大きな飛躍を見せてくれました。

笑顔と明るさを大切に、他者を思いやる心を行動に移し、全員で団結し、学級だけでなく月瀉中学校全体を、さらには地域でも、大きな前進を見せてくれました。特に、学校行事では、他者を尊重するという月瀉中の新たな伝統を作ってくれました。私は、卒業生のみなさんとともに、月瀉中学校で歩みを進められたことを誇りに感じています。

そういう卒業生に、はなむけに次の歌を贈ります。(歌 アンパンマンマーチ2番 略)

この歌の意味は、「自分にとっての幸福、自分だけの生きがいを見いだそう。そのために、たとえ困難があっても、くじけそうになっても、自分の夢をいつまでも大切にして、その実現に向け努力を継続しよう。あなたが夢に向けて努力し続けることは、周りの人たちも、幸せにすることでしょう。」です。

人は、誰しも幸せな人生を送りたいと願い、希望をもって夢を追いかけていきます。たとえ、夢が夢で終わったとしても、夢を追うこと自体が生きがいになっていきます。もしもくじけそうになったときは月瀉で、コロナ禍という困難をバネに素晴らしい仲間たちと協力し、大きく成長できたこと、学校を大きく飛躍させたことを思い出してください。今日ご臨席の皆様とともに、卒業生の輝かしい未来に夢を託し、式辞と致します。



三年生の皆さんは、どんな時でも一、二年生に対して優しく、明るい雰囲気でも月瀉中学校を引っ張ってくださいました。

私が、皆さんとの思い出を振り返って一番記憶に残っている行事は今年の体育祭です。練習では、同じ軍でなくても、教え合ったりアドバイスを言い合ったりする場面がありました。本番では、それぞれの軍がダンスを踊っている際に手拍子や声援を贈り合っていました。黄軍・青軍という軍色にとらわれず、同じ月瀉中学校の生徒として全力で体育祭に取り組む姿は後輩の手本となりました。結果発表では、青軍の団長をはじめとした団員全員が黄軍の人たちへ祝福の言葉をかけてくださいました。今まで以上に全校生徒が団結し、創り上げた体育祭になったと思います。来年度の体育祭では私たちが最高学年としての自覚と責任を持ち、後輩の手本として背中を見せることができるよう取り組んでいきます。

月華祭の生徒会企画では、衣装を用意して勝負形式でのダンスを行い、見ている人を飽きさせない楽しい企画を行うことが出来ました。音楽祭では、合唱練習の反省点が黒板を埋めつくすほど書き出されていました。自主的に考え、合唱を変えようとしていた姿から全員が気持ちを一つにすることの大切さを学ばせていただきました。本番では、三年間の集大成がこもった声量と団結力で多くの人の心を動かしてくださいました。私たち一、二年生も合唱を変えようという思いを持ち、聞いてくださる人の心を動かすことのできる合唱にしたいと思います。

三年生の皆さん、今まで全校生徒をリードし月瀉中学校を盛り上げてくださり本当にありがとうございました。新三役をはじめとした全校生徒で挨拶や積極性の向上を目標とし、より良い月瀉中学校を創っていきます。三年生の皆さんと過ごした中学校での二年間の思い出は、忘れられない大切な宝物です。三年間の中学校生活を終えられ高校生を目前とし、先輩方は今大きな希望と夢を抱いていらっしゃると思います。高校生活でも努力を惜しまず後輩の手本となり続けた自分達自身を誇りに思い、輝かしい未来を切り開いて行ってほしいと思います。在校生一同心から応援しています。いつまでも名残はつきませんが先輩方のご健康とご活躍を祈念し送辞といたします。



本日は私たちのために、このような心のこもった卒業式を挙げてくださりありがとうございます。また、多忙の中、お越しくださったご来賓の皆様、保護者の方々、先生方、在校生の皆さんに卒業生一同心より御礼申し上げます。先ほどより、いただいたご祝辞と励ましのお言葉を胸に、本日私たち三十六名は義務教育の課程を修了し、月潟中学校を卒業いたします。

思い起こせば、3年間の中学校生活は本当にあっという間で、何気なく過ごしてきた仲間たちとの時間は、かけがえのないものだったと感じます。真新しい制服に身を包み、新しい環境に対する不安と期待で胸がいっぱいでした。2年生となり、自分たちが主体となって活動する場面が格段に増えました。部活動では、顧問の先生の熱心な指導をいただき、目標に向かって継続して努力すること、諦めずに最後までやり遂げることなど、勉強だけでは学べない大切なことを学び、心身ともに成長することができました。

3年生になって、学校を引っ張る存在となり、不安もありましたが、着実に歩みを進めていきました。特に、最後の体育祭では、上に立ち全校を引っ張っていく責任を果たそうと、一人一人が全力で取り組みました。限られた時間の中で完成させることや、各軍目標を一致させることは簡単なことではありませんでした。

日々の生活や学校行事の充実には、私たちの力だけでなく、たくさんの方々の支えがありました。特に3年間担任の後藤先生には大変お世話になりました。面白くてユーモアあふれる後藤先生にいつも笑顔をもらっていました。後藤先生は私たちのこと1番に考え、熱い言葉で鼓舞してくださり、そのおかげでここまで成長することができたと思います。歌が上手で、スポーツも上手でかっこいい後藤先生が私たちの担任で本当によかったです。

保育園で出会い、そこから10年以上、ほとんどの時間を共に過ごしてきた仲間との当たり前の日常がもうないということが信じられません。月潟では珍しい36人という大人数で個性があふれるこのクラス、楽しいことはもちろん、喧嘩もしたり、悩んだり、たくさんの方がいました。これからは自分の人生を自分で選択していかなければなりません。不安になったときは、月潟中学校で、仲間と過ごしたこの大切な時間を思い出し、また前を向き歩いていきます。



たくさんの皆様からお祝いの言葉を頂戴しました。ありがとうございました。

